

## ◇編集後記◇

自殺対策やアスベスト問題など社会的インパクトの大きい産業衛生関連の諸問題がトップニュースとして扱われる中、新しい日本産業衛生学会の体制がスタートしています。和文誌巻頭の“理事長就任の挨拶”には、「サイエンスとアートを産業保健にも」とのキャッチフレーズが掲げられています。まさに、社会における本学会のあるべき姿、産業衛生専門家の果たすべき役割を示すものと感じます。そして、10項目の方針の第一に、産業保健の科学的・学問的基盤を充実させることが挙げられ、総会・地方会・研究会における学術発表と機関誌に掲載される学術論文の充実を推進力とした学術面での活性化の方策が提言されています。

機関誌には、原著論文、総説、短報に加え、事例、調査報告、資料、話題など幅広い種類の枠組みが用意されています。編集委員会では、和文・英文両機関誌の誌面が、これからの産業衛生学を形作る質の高いエビデンス

発信と幅広い意見交換の場となるよう努力を重ねておりますので、会員各位からの積極的な情報発信を心よりお待ちしております。

今号には、医療従事者の抗がん剤曝露による健康リスクに関する総説が掲載されています。従来から、針刺しによる感染症対策、業務上の筋骨格系負荷や心理的負荷に関する調査報告が本学会でも活発に行われてきましたが、わが国の医療・保健・福祉セクターで働く人の数が数百万人を超えると推定され、高齢化社会における社会的役割がより一層高まっている現在、産業衛生学の重要な課題の一つとして、より幅広い議論が行われるべき時期にあるといえそうです。ケースレポート、リスクアセスメント、リスクコントロール手法の有効性評価など現場からの調査・研究から包括的なリスクマネジメントに関する報告まで、より多くの投稿をお待ちしております。

(武林 亨)

## 「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林 亨（慶應大）、堤 明純（岡山大）、

本橋 豊（秋田大）、森 満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（高知大）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（産医研）、塩飽邦憲（島根大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埴田和史（滋賀医大）、谷川 武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（帝京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利一（産業医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（ヒューマンメディア財団）、若林一郎（山形大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番